

農作業事故の当事者が語る……

# ケガで地域に 迷惑をかけてしまおう



ケガによる担い手の離脱は  
集落営農の崩壊にも

水稲・そば・麦・大豆を作付ける集落営農法人では、30kgの個袋を計量器からバレットまで運ぶ際、床面からの持ち上げや10m程度の移動によってギックリ腰・腰背痛が頻発していました。  
**主たる担い手がケガをして作業から離脱すると、地域全体の営農に影響を及ぼします。**当初掲げていた集落営農像も実現できなくなりかねず、法人代表は「地域の担い手になった以上、ケガは自分だけの問題ではない。地域に迷惑をかけたくない一心で、事故防止に取り組んでいる」と語ります。

ヒヤリハットの共有は  
恥ずかしいことではない

GAP（農業生産工程管理）の団体認証に取り組む別の集落営農法人では、乾燥調製施設内で荷物を持ち上げる際に突起物で頭部を強打したり、脚立からの落下、鎌やカッターによる切傷などの事故が発生していました。  
そこで「ヒヤリハットの共有は恥ずかしいことではない」との意識から、従事者同士で**ヒヤリハット事例を共有化**。作業日誌のほかスマホからも記載できるようにしたり、作業に行く際はスマホのアプリから危険を知らせる通知を表示。ほかにも、作業が困難な箇所（せまい農道から水田への進入路など）はベテランが担当するなど、危険回避に努めています。

## 「安全第一」こそ 集落営農の最重要課題

農作業死亡事故の多くが高齢者
多くの地域で世代交代や担い手の確保が困難な状況
事故の重大さを集落全体で認識する必要
「迷惑をかける→事故を隠す」につながらないように、ヒヤリハットの共有や危険個所の改修を徹底

## 対策のポイント

- ・事故発生時の手順書を明示。
- ・作業時は各自が救急箱を持参。
- ・ヒヤリハット事例を地図アプリと簿冊で共有。
- ・朝礼で作業場所付近の危険個所やドローン作業における事故防止を注意喚起。
- ・トラクター作業では必ずヘルメット装着、片ブレーキ厳禁、修理点検時のエンジン停止などを徹底。
- ・危険が予想される個所での草刈り作業は2人以上で行う。



トラクターからの降車時、凍った地面で足を滑らせ…  
乗用トラクターで除雪中、障害物に気づいてトラクターから飛び降りようとした際、凍った地面で足を滑らせて仰向けに倒れ、右肩を強打。

**田植え機に肥料を補給しようとして…**

20kgの肥料袋を抱えて田植え機の前部に乗った際、足を滑らせて転倒。田植え機に腰と背中を強打し、脊椎骨折と打撲。

**あゆみ板が外れ 田植機が体の上…**

運搬車の荷台から田植機をバックで降ろす際、あゆみ板が外れそうになったため、とっさに飛び降りて伏せたところ、上から田植機が落下してきて左大腿骨折。

果樹園でSS運転中、主枝に頭部を打ちつけ…

スピードスプレーヤーを運転中、果樹の主枝の直近で頭を傾けて避けたものの、SSの異音に気づいて運転席のメーターを確認しようとして顔を上げた際、頭部が主枝に激突。ヘルメットも飛ぶほどの衝撃で、頸椎亜脱臼。

**無人運転用モノレールに乗って…**

ミカン園で無人運転用のモノレールに乗り、ハシゴと刈払機を運搬しようとしたところ、防風垣にぶつかって脚を強打。

**搾乳中、牛に蹴られ…**

酪農の牛舎で乳房炎にかかった牛を一人で搾乳しようとした際、誤って患部に触れ、痛がった牛が蹴り出した左足が胸部に当たり打撲入院。

**子供たちの声に驚いた牛が…**

搾乳中、近くで小学生が大声で挨拶をしたことに驚いた牛が、作業者の左大腿部付け根を踏みつけ骨折。

## 安全管理と 事故防止対策

- ・車高が高い乗用トラクターは飛び乗り・飛び降り厳禁。
- ・靴底に十分刻みがあり、滑りにくい長靴を使用。
- ・公道走行に必要な安全機能が装備されていない田植機の移動は、運搬車を使用。積み込み・積み下ろしにはあゆみ板を利用。
- ・果樹園内の作業路は、枝葉のかぶさりや旋回場所などのリスクを毎年チェック。
- ・無人運転用モノレールには乗らない。
- ・危険行動が予測される牛の搾乳は複数人で、牛を保定して行う。
- ・牛の近くでは大声を出さず、ゆっくり行動。